

Mercurial を設定して SimDiff を使用するには

目次

Mercurial の操作手順	2
SimDiff を外部差分ツールとして使用する.....	2
SimDiff を Simulink モデルファイルのマージツールとして使用する	2
参照サイト	2
TortoiseHg の追加手順.....	3

Mercurial の操作手順

Mercurial で SimDiff を使用するには、Mercurial の設定ファイルを変更する必要があります。設定ファイルの保存先は、オペレーションシステムによって異なりますのでご注意ください。Windows は「%USERPROFILE%/Mercurial.ini」Linux の場合には「\$HOME/.hgrc」を参照してください。

SimDiff を外部差分ツールとして使用する

Mercurial で効率的に外部差分ツールを使用するため、製品と共に配布された extdiff 拡張子を使用します。以下の例に従って、設定ファイルを変更してください。

```
[extensions]
hgext.extdiff =

[extdiff]
cmd.simdiff = C:\Program Files\EnSoft\SimDiff\simdiff4.exe
opts.simdiff =
```

なお、使用するコマンドは「hg diff」コマンドに類似しています。

```
> hg simdiff model.mdl
```

カスタムコマンドは、単一モデルファイルの更新内容の比較にのみ使用可能であり、ディレクトリが特定されている場合にはエラーが発生しますので、ご注意ください。

SimDiff を Simulink モデルファイルのマージツールとして使用する

以下の例に従って、[merge-patterns] と [merge-tools]、2 つのセクションを変更してください。

```
[merge-patterns]
**.mdl = simdiff

[merge-tools]
simdiff.executable = C:\Program Files\EnSoft\SimDiff\simdiff4.exe
simdiff.args = -b $base -l $local -r $other -o $output
simdiff.binary = true
simdiff.gui = true
```

上記の処理によって SimDiff が起動され、ファイル拡張子が「.mdl」として設定されたファイルのマージが可能になりますが、ファイルレベルでの競合がある場合のみ SimDiff が起動しますのでご注意ください。例えば、任意のモデルファイルが単一のブランチ内でのみ変更された場合、SimDiff は起動されません。

参照サイト

<https://www.selenic.com/mercurial/hgrc.5.html#merge-patterns>

<https://mercurial.selenic.com/wiki/ExtdiffExtension>

TortoiseHg の追加手順

TortoiseHg 上で SimDiff をマージツールとして正確に認識するには、設定ファイルで指定する必要があります。なお、「Visual Diff」で外部差分ツールが正しく作動しない場合があります。この状態は、マージツールと違って、外部差分ツールが拡張子で管理されていないことに起因します。

デフォルトでは、TortoiseHg は設定ファイル内で、一番最初に指定されている外部差分ツールを、「Visual Diff」に適用します。さらに、優先順位を指定することも可能です。SimDiff は Simulink モデルファイルの差分処理にのみ対応しており、一般のテキストファイルではエラーの発生が確認されているため、SimDiff を「Visual Diff」の差分ツールとして使用することは推奨していません。SimDiff の作動を防止するには、設定ファイル内で SimDiff の上の行に別の外部差分ツールを挿入するか、あるいは以下の手順に従って、TortoiseHg のグローバル設定から別のツールを指定してください。

1. エクスプローラ内の空白の部分で右クリックし、[TortoiseHg] > [Global Settings] を選択します。
2. 左の欄から [TortoiseHg] を優先グループとして選択します。
3. 次に、[Visual Diff Tool] ドロップダウンメニューから、例えば [kdiff3] などの SimDiff 以外のツールを選択します